

「生きる力を支える豊かな心を育むための指導の工夫」－命の大切さを学ぶ体験活動を通して－

I 研究の内容

1 活動のねらい

(1) 地域の自然環境に根ざした体験活動から、命の理解へ。

本校の校区は、豊かな自然に恵まれている。その自然環境を体験活動に活かしていきたい。地域のお年寄りとの交流や自然環境を守る活動を行い、地域や自然に対する関心を高めていく。また、地域の畑や水田で作物を育てる体験に取り組ませることで、作物を大きく育てるには様々な手間や努力が必要なることを知るとともに、作物にも命があり、それらを食することで私たちが生かされていることを学ばせていく。さらに、水田の生き物調査や生き物を飼育・観察する活動を絡ませていくことで、命の大切さについての理解に結びつけていく。

(2) 命の学習から、自他の生命の尊重へ。

体の不自由な方々との交流や点字・手話・アイマスク・車いすなど様々な体験活動に取り組む。また高学年では、胎児の成長や出産について学ぶ活動を行い、自分が誕生した時の様子と重ね合わせながら、自他の命を大切にすることを養っていく。

共
通
仮
説

教科学習や総合的な学習、特別活動等において、命の大切さを学ぶための体験活動を取り入れ、工夫して指導していくことで、自他の命を大切にし 思いやりの気持ちを持って生活していこうとする豊かな心を育むことができるだろう。

2 活動の実際

(1) 高学年部会の研究

○第4学年授業研究 総合的な学習の時間「共に生きよう 一体の不自由な方との交流を通して」

・日 時 平成21年7月1日(水) 5校時

・単元の目標 自分達の周りにいる様々な人々と「共に生きていく」ことの大切さを考える。

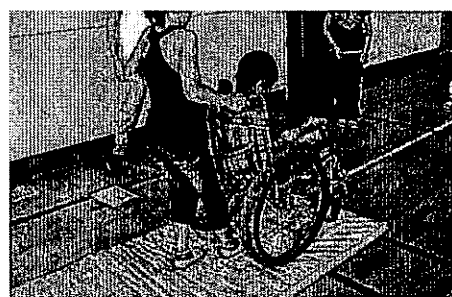
相手のことを思いやり、自分がどのように行動すればよいのかを体験を通して知る。

・活動計画(抜粋)

過程	学 習 活 動
課題を設定する	・車いすに乗り、自分だけの力で動かし移動する。 ・車いすを友達に押ししてもらい移動する。 ・車いすに乗っている人の気持ちになって車いすを押す。 ・どのような気持ちで学習を進めるのかクラスで確認する。 ・自分の学習課題を設定する。
追究する	・インターネットや本などを使ったり体の不自由な方と連絡をとったりして、課題を追究する。 ・車いすで生活している人と交流をして、どのような行動が相手の思いやりなことなのかを体験する。(本時) ・交流会をもったあとでさらに調べたいことを追究する。
まとめる	・調べたことをまとめる。 ・発表会の練習をする。 ・発表会をする。
深める	・学習を通して、「共に生きる」ことの意味について考える。



交流会の様子



車いす体験の様子

(2) 低学年部会の研究

○第2学年授業研究 生活科「さいばいものがたり」

・日 時 平成21年11月11日(水) 5校時

・単元の目標 育ててみたい野菜の栽培を通して、生長の様子、野菜の育て方や育てるための工夫などに気づくとともに、生長の様子に関心を持ったり親しみを感じたりしながら、世話をする楽しさや収穫の喜びを味わう。

・活動計画(抜粋)

学 習 活 動	
何を育てよう	- 育てたい野菜について話し合う。 - 育てたい野菜について、植え付け方や育て方などを家の人に聞いたり、本などで調べたりする。 - おばあちゃん先生に植え方やまき方を聞きながら植える。
世話を続けよう	- 生長の様子を観察し、野菜の生長や野菜の特性に合わせた世話をする。(水やり・草取り・移植・間引き・支柱立て…) - 育てている野菜の様子や気づいたことをみんなに伝える。 - 世話の仕方分からないことがあれば、質問したり調べたりする。
野菜ができた	- 育てた野菜を収穫する。 - 学校や家で調理して食べる。 - 収穫した野菜や食べた感想などをみんなに知らせる。 - 野菜作りの写真やこれまで書いた観察カードなどをもとに、夏野菜の栽培について振り返る。 - 畑を整理する。
今度は冬野菜	- 冬野菜について話し合い、家の人に聞いたり調べたりする。 - 育てたい野菜を決めて、育て方を調べる。 - 土作りをして、種まきや苗の植え付けをする。 - 水やりや草取りなど生長に合わせた世話、観察をする。 - 育てている野菜の生長の様子や世話について話し合い、交流する。(本時)
さあ収穫だ	- 育てた野菜を収穫する。 - 収穫した野菜をどうするか話し合う。 - 収穫した野菜を調理して味わう。 - みんなで育てた野菜作りの思い出を残す。



種まき・苗の植え付けの様子



授業の様子

(3) 体験活動実践報告

○1月 第5学年・第6学年実践報告

○2月 第1学年・第3学年実践報告

II 成果と課題

○命をキーワードとして、体験活動に取り組んできた。子どもたちが実物にふれ、自分で経験することで、植物や生き物、そして私たちの命を実感できたと思う。また、子どもたちだけでなく、家庭や地域とのつながりを持つことができたことも成果である。

○体験活動をすることで、を改めて感じた。

○3年間の継続的な研究を通して、命につながる体験活動をすることで「子ども達の学習への意欲や成果が高まること」「児童の豊かな心を育み、生きる力を支えるために有効であること」が検証できた。

△体験活動をさせるためには、準備や教師にそれなりの知識や技能を求められる。幅広く知識を吸収し指導するための技能を身につけることが必要である。また、体験学習を補助してくれる人材や場所を常に調べておく必要がある。

III 成果物

1 第2学年生活科指導案「さいばいものがたり」

2 第4学年総合的な学習の時間指導案「共に生きよう 一体の不自由な方との交流を通して」

3 各学年体験活動計画及び、実践報告書

(研究主任 武井 茂)